



金貨幣之部

金幣ノ名目

国名	名目	重量	純金	價	純金價
オーストラリア	ポランド <small>但千八百五十二年出来</small>	〇、二百八十一	九百十六半	五、三三、三三七	五、三三、三三七
オースタラリヤ	ソラフド <small>但千八百五十五年出来</small>	〇、二百五十六半	九百十六	四、八五、五十八	四、八三三、十六
オーストリヤ	ジュカル	〇、百十三	九百八十六	三、二八、二二八	三、二二七、〇四
オーストリヤ	ソラフヘリン	〇、三百六十三	九百	六、七五、三三五	六、七七一、九十八
オーストリヤ	ニウ、ウラゴロン <small>経験</small>	〇、三百五十七	九百	六、六四、十九	六、六六、八十七
ベルギー	二十五フランクス	〇、二百五十四	八百九十九	四、七二、〇三	四、六六、九六十七
ボリウイヤ	ダブルン	〇、八百六十七	八百七十	十五、五九、二二五	十五、五五、一四六
ブラジイル	二十ミルリス	〇、五百七十五	九百十七半	十、九、五十七	十、八五、十二

量
一フランクス以テ

純金
一フランクス以テ

價
アメリカ金ドル
元ヲ以テス

純金價
同上

セントルアメリカ	ニスゴドス	〇、二百〇九	八百五十三半	三、六十八、七十五	三、六十六、九十一
セントルアメリカ	四レールス	〇、二十七	八百七十五	〇、四十八、八	〇、四十八、六
チリー	古ドフルン	〇、八百六十七	八百七十	十五、五十九、二十六	十五、五十一、四十七
チリー	ナペソス	〇、四百九十二	九百	九、十五、三十五	九、十、七十八
デ子マルク	十ターレル	〇、四百二十七	八百九十五	七、九十、一	七、八十六、〇六
イクアルド	四イスクドス	〇、四百三十三	八百四十四	七、五十五、四十六	七、五十一、六十九
インゲランド	新ポラドス <small>ヌイフドシ</small>	〇、三百五十六、七	九百十六半	四、八十六、三十四	四、八十三、九十一
インゲランド	通常ポラドス <small>ヌイフドシ</small>	〇、三百五十六、二	九百十六	四、八十四、九十二	四、八十二、五十
フランス	新二十フランクス	〇、二百〇七半	八百九十九半	三、八十五、八十三	三、八十三、九十一
フランス	通常二十フランクス	〇、二百〇七	八百九十九	三、八十四、六十九	三、八十二、七十七

金花堂

北ベルマニー	十ターレル	〇、四百二十七	八百九十五	七、九十二、〇一	七、八十六、〇六
北ベルマニー	十ターレル <small>プロシヤ</small>	〇、四百二十七	九百十三	七、九十七、七	七、九十三、〇九
北ベルマニー	コローン	〇、三百五十七	九百〇〇	六、六十四、二十六	六、六十、八十八
南ベルマニー	ジュカツト	〇、百十二	九百八十六	二、二十八、二十八	二、二十七、十四
ギリース	二十ダラクムス	〇、百八十五	九百〇〇	三、四十四、十九	三、四十二、四十七
ヒンドスタン	モフル	〇、三百七十四	九百十六	七、〇八、十八	七、令四、六十四
イタリー	二十ライル	〇、二百〇七	九百八十九	三、八十四、二十六	三、八十二、三十四
日本	古小判	〇、三百六十二	五百六十八	四、四十四、〇	四、四十一、八
日本	新小判	〇、二百八十九	五百七十二	三、五十七、六	三、五十五、八
メキシコ	通常トグルン	〇、八百六十七半	八百六十六	十五、五十二、九十八	十五、四十五、二十二

メキシコ	新ドルフィン	〇、八百七十七半	八百七十七半	十五、六十一、〇五	十五、五十三、二十五
子ーフルス	新六ジユケツト	〇、二百四十五	九百九十六	五、〇四、四十一	五、〇一、九十一
子ーブルテンド	十ギユルドルス	〇、二百十五	八百九十九	三、九十九、五十六	三、九十七、五十七
新グラナタ	古ドルンボゴチ	〇、八百六十八	八百七十	十五、六十一、〇六	十五、五十三、二十六
新グラナタ	新ドルンボゴチ	〇、八百六十七	八百五十八	十五、三十七、七十五	十五、三十、〇七
新グラナタ	ナペソス	〇、五百二十五	八百九十一半	九、六十七、五十一	九、六十二、六十八
ペルー	古ドルン	〇、八百六十七	八百六十八	十五、五十五、六十七	十五、四十七、九十
ペルー	二十ソラルス	一、〇三十五	八百九十八	十九、二十一、八	十九、十二、二
ポルトガル	ゴルトコロン	〇、三百〇八	九百十二	五、八十、六十六	五、七十七、七十六
ブロシヤ	ニウウランヨロン <small>(雜貨)</small>	〇、三百五十七	九百〇〇	六、六十四、十九	六、六十、八十七

ローム	新ニ半スキユシ	〇、百四十	九百〇〇	二、六十、四十七	二、五十九、十七
ロシヤ	五ルウブルス	〇、二百十	九百十六	三、九十七、六十四	三、九十五、六十六
スペイン	一百レールス	〇、二百六十八	八百九十六	四、九十六、三十九	四、九十三、九十一
スペイン	八十レールス	〇、二百十五	八百六十九半	三、八十六、四十四	三、八十四、五十一
スウェーデン	ジユケツト	〇、百十一	九百七十五	二、二十三、七十二	二、二十二、六十一
トニス	二十五ピーストレス	〇、二百六十一	九百〇〇	二、九十九、五十四	二、九十八、〇五
トルキー	百ピーストレス	〇、二百三十一	九百十五	四、三十六、九十三	四、三十四、七十五
トスカニー	セクイン	〇、百十二	九百九十九	二、三十一、二十九	二、三十、十四

銀貨幣之部

國名	銀幣ノ名目	量	純銀	價
ヲ、ストリヤ	古リキス、ドルラル	○、九百。二	八百三十三	一、○、二、下、二十七
ヲ、ストリヤ	古スクド	○、八百三十六	九百。二	一、○、二、六十四
ヲ、ストリヤ	フロリン <small>但一千八百五十八年前出来</small>	○、四百五十一	八百三十三	○、五十一、十四
ヲ、ストリヤ	新フロリン	○、三百九十七	九百。○	○、四十八、六十三
ヲ、ストリヤ	ニウウニランドルラル	○、五百九十六	九百。○	○、七十三、○一
ヲ、ストリヤ	マリヤ、 <small>但一千七百五十年出来</small>	○、八百九十五	八百三十八	一、○、二、十二
ベルジユム	五フランクス	○、八百。三	八百九十七	○、九十八、○四
ボリウイヤ	新ドルラル	○、六百四十三	九百。三半	○、七十九、○七

ボリウイヤ	半ドル	〇、四百三十二	六百六十七	〇、三十九、二十二
ブラジル	ドブル、ミルレース	〇、八百二十	九百十八半	一、〇、二、五十三
カナダ	二十セント	〇、百五十	九百二十五	〇、十八、八十七
セントラル、アメリカ	ドル	〇、八百六十六	八百五十	一、〇、〇、十九
チリ	古ドル	〇、八百六十四	九百〇、八	一、〇、六、七十九
チリ	新ドル	〇、八百〇、一	九百〇、〇、半	〇、九十八、十七
デ子マルク	ニレグス、デール	〇、九百二十七	八百七十七	一、十、六十五
インゲランド	新シリング	〇、百八十二半	九百二十四半	〇、二十二、九十六
インゲランド	通常シリング	〇、百七十八	九百二十五	〇、二十二、四十一
フランス	通常五フランクス	〇、八百	九百	〇、九十八、〇

金花堂

北ゼルマニー	ターレ	〇、七百十二	七百五十	〇、七十二、六十七
北ゼルマニー	新ターレ	〇、五百九十五	九百	〇、七十二、八十九
南ゼルマニー	フロリン	〇、三百四十	九百	〇、四十一、六十五
南ゼルマニー	新フロリン	〇、三百四十	九百	〇、四十一、六十五
ギリース	五ドラクムス	〇、七百十九	九百	〇、八十八、〇、八
ヒンドスタン	ルピー	〇、三百七十四	九百十六	〇、四十九、六十二
日本	一分	〇、二百七十九	九百九十一	〇、三十七、六十三
日本	新一分	〇、三百七十九	八百九十	〇、三十三、八十
メキシコ	新ドル	〇、八百六十七半	九百〇、三	一、〇、六、六十二
メキシコ	通常ドル	〇、八百六十六	九百〇、一	一、〇、六、二十

子ーポルス	スクド	〇、八百四十四	八百三十	〇、九十五、三十四
子ーゾラランド	ニ半ギユルド	〇、八百〇四	九百四十四	一、〇三、三十一
ノルウエー	スベリードルラル	〇、九百二十七	八百七十七	一、十、六十五
ニウ、グラナタ	トルラル <small>但一千八百五十七年 出来</small>	〇、八百〇三	八百九十六	〇、九十七、九十二
ペルー	古ドルラル	〇、八百六十六	九百〇一	一、〇六、二十
ペルー	ドルラル <small>但一千八百五十八年 出来</small>	〇、七百六十六	九百〇九	〇、九十四、七十七
ペルー	米ド先 <small>但一千八百三十五年 八百三十八年出来</small>	〇、四百三十三	六百五十	〇、三十八、三十一
プロシヤ	タラ <small>但一千八百五十七年 出来</small>	〇、七百十二	七百五十	〇、七十二、六十八
プロシヤ	新タラ	〇、五百九十五	九百	〇、七十二、八十九
ローム	スクド	〇、八百六十四	九百	一、〇五、八十四

金花堂

ロシヤ	ルーブル	〇、六百六十七	八百七十五	〇、七十九、四十四
サルジニヤ	五ライル	〇、八百	九百	〇、九十八、〇〇
スペイン	新ピースタリン	〇、百六十六	八百九十九	〇、二十、三十一
スウエーデン	リキスドルラル	一、〇九十二	七百五十	一、十一、四十八
スウイツラランド	ニフランクス	〇、三百二十三	八百九十九	〇、三十九、五十二
トニス	五ピアストルス	〇、五百十一	八百九十八半	〇、六十二、四十九
トルキー	二十ピアストルス	〇、七百七十	八百三十	〇、八十六、九十八
トスカニー	フロリン	〇、二百二十	九百二十五	〇、二十七、六十

造幣局備忘記

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

英國下院ノ命ヲ報シ千八百七十年第二月十日
造幣局ヨリノ建言書ノ寫

造幣局ノ總長ガラハム氏卒スルニ及ヒシヨリ、此人生前
十八年間施行シタル造幣局ノ變革處置ヲ審思考
察シ且一ニハ之ヲ千八百五十一年ニ廢シタル以前ノ造幣
局ノ法ト比較シ又一ニハ他邦ニテ行ナハル、平民ト政府トノ
條約ニテ貨幣ヲ鑄造スル法ト比較シ方今行フ所ノ法ノ
是非ヲ熟考シテ改革スルノ好機會ヲ得ル、此時ニ在リ
ト謂フベシ

千八百五十一年ニ至リ英國造幣局ノ規則ヲ一新シ政
府ヨリ俸金ヲ與フル官吏ニ其事務ヲ委任シタル迄ハ
千五百年代ニテ僅カ二十七年間此事有リシノミニシテ
古今常ニ政府ト造幣局ノ長ト條約ヲ定メ又ハ其長ノ
紹介ニテ造幣引受人ト云ヘル者政府ト條約ヲ定メ又ハ
其長ノ紹介無ク造幣引受人直ニ政府ト條約ヲ結ヒテ
造幣ノ事ヲ行ヒタルナリ
又貨幣ヲ鑄造スルニ非スレテ唯金屬ヲ熔解スルノ條約
ハ千八百五十一年ノ變革ノ時ハ造幣局長ノ書記官ノ
權ニ委子タル所ナリシ

元來造幣局長ハ政府ト條約ヲ為シテ造幣ノ事ヲ引
受ル者ニシテ又國王ヨリ之カ監督ノ為メニ命シタル者ヲ
監察官ト稱シ又造幣局長ト監察官トノ兩官ヲ點檢
スル者ヲ大監察官ト稱ス
鑄造ノ法律ニ由テ之ヲ考察スルニ此三職名義ノミハ
常ニ存シタルカ如シト雖モ其實ハ千六百六十六年既ニ
此職廢レ其監察官ニ屬シタル職務ハ後盡ク造幣局
長ニテ之ヲ兼勤スルトナレリ既ニ千七百九十九年ニ於テ
特ニ造幣局長俸金ヲ與ヘ千八百十七年ニ至リ監察官
全ク廢職トナルニ至レリ

以來ハ造幣局長貨幣鑄造ノ事務ヲ熟知スル者ニ
シテ其職ニ永續シタル者ナリレガ千七百年間其事ヲ
停止シ其官吏ハ他ノ官吏ノ如ク時々轉任スルトナレリ
造幣局長ハ其局中ノ諸事務ヲ處置スルニ其局ノ重
立タル士官等ノ會議ノ補助ヲ受ケタル者トス但レ此法
千八百五十一年變革ノ時迄ハ尚行ハレタル所ナリ

千八百四十八年ニ於テ造幣局ノ規律ト其諸務トヲ檢查
セシメンカ為メニ國王ヨリ特ニ官吏ニ委任シテ其事ヲ為サ
シメタリ其委任ヲ受ケタル官吏ヨリ貨幣鑄造ニ関涉シ
タル事務ハ何事ニ依ラス引受ノ條約ヲ以テ為サシムル

ヲ全ク廢ス可キ旨ト且方今條約ヲ以テ許シタル人民
ノ鑄造等ヲモ全ク廢シ自今政府ノ利益ノ為メニ相
當ノ士官ヲ命シ專ラ造幣局長ノ指令ニ從テ是等ノ
事ヲ務メシム可キ旨トヲ建言シタリ此建言ト會計局ノ
評議トニ因リ千八百五十一年ニ次ノ條件ヲ極定セシカ
其箇條ハ鑄造者政府トノ條約ニテ貨幣ヲ鑄造スルノ
一ヲ廢スベキ一又金屬ノ分析局ハ造幣局ノ一部タル一
ヲ廢シ又其局ノ士官タル者私ノ為メニ局中ニテ金屬ヲ
鎔解シ或ハ之ヲ分析シ或ハ之ヲ試驗シ或ハ之ヲ彫刻ス
ル一等ヲ許可セス且總テ金屬ヲ鎔解シ貨幣ヲ鑄造

スルノ權ハ以後專ラ政府ノ掌握ニ歸スル等ノ事ナリ
造幣局長ノ職ハ千八百五十年第十二月シール氏退
職ノ時ヨリ全ク政事ニ関涉無キモノトシ其俸金一箇
年ニ二千ポンド
一ポンド凡
我五兩計ヨリ千五百ポンド迄ニ減少シ
タリ

シール氏ハ造幣局ノ諸務ヲ検査スル為メニ國王ヨリ委
任セラレタル官員一人ニシテ貨幣ヲ鑄造スルニ政府ト
平民ト條約ヲ為スノ方法ヲ以テ初メハ甚タ不可ナリト
セシカ後日復公ケノ條約ニ依リ平民ニ鑄造ヲ許ス
可ナラントノ論說ヲ會計局ニ建言シタリ但シ其趣意

ハ造幣局長ト會計局トニテ至當ト思ヘル所ニ隨ヒ人
民ヲシテ競テ造幣引受ノ條約ヲ為サシメントスル所
ナリ諸右シール氏ノ論說ニ循ヒジョンヘルセル氏其職ニ
代任シタル後造幣局ニ於テ鑄造ノ事務ヲ引受ケテ
為サント希望スル者ハ其願書ヲ出ス可シトノ旨ヲ會
計局ヨリ命シタリ之ニ依テレンニー氏モウドスレイ氏
ソン氏ヒールド氏及ヒノオチング氏等ノ人々ヨリ其願
書ヲ出シタリ然ルニ政府ヨリ命スル所ノ條約過嚴ニ
シテ又レンニー氏及ヒウドスレイ氏ノ願出シタル所ニテ
ハ鑄造ノ利ヲ得ント欲スルノ過分ナリトシ又ノオチング

氏ハ三万ポンドノ請合金ヲ出スト能ハサリシニ因リ會
計局ニテハ此等ノ者ヲ願ヲ盡ク承諾スルトナカリシ
此等ノ願ヲ承諾セサリシニヨリ政府專ラ官吏ニ任
シテ金屬ヲ鎔解シ貨幣ヲ鑄造スルノ方法ヲ採用
シ且之ヲ施行スルカ為メ書記官ノ長及ヒ鎔解者及ヒ
鑄造惣長等ノ職ヲ置キ又其補助ノ官ヲモ設ケタリ
此變革ニ依リテ造幣局一ヶ年ノ入費前ニハスレハ凡ソ
一万ポンドノ金高ヲ減シタリ

此變革後千八百五十三年造幣局長名代ケピテイ
ハル子スノ退職ノ時造幣局長名代ノ職ト大監察ノ

職トヲ合一シ且千八百六十九年鑄造總長ジョンガラハム
氏ノ死去シ鑄造方補助タルヒール氏ヲ其惣長ノ職ニ任
シタル後ハ鑄造方補助ノ職ヲ廢シタル等ノ事ヲ以テ
大ナル變革ナリトス又其他ノ改革ニヨリ其局ノ入費一ヶ
年ニ千三百ポンドノ金高ヲ減シタリ

千八百五十一年造幣局ノ法律ヲ改革シ新法ヲ設立
シタル後ニハ殊ニ注目ス可キ事件無ク唯千八百六十一
年初メテ銅錢ヲ鑄造シタルノ事ノミ但シ此銅錢鑄造ノ
量目ハ九千七百頓ナリシカ多分ハビルミングハム_{地ニ於テ}
政府ト引受人トノ條約ニ依リテ鑄造シタルモノトス然ル

ニ方今ハ此銅錢ヲ造幣局ニテ鑄造スルニ付曩ニ引受人
ト條約ヲ以テ為シタル時ノ入費ニ比スレハ貨幣一頓毎ニ
凡四ポント十シリング一シリングハ凡
我金一分許ノ費用ヲ減シタリ
十年前ヨリ造幣局每年中等ノ入費ハ銅錢ノ入費ヲ
除キ之ヲ筭計スルニ一ケ年ニ付キ二万五千ポントスベシ
但シ千八百六十一年ニ初メテ鑄造シタル銅錢ノ入費ハ總
計十萬ポンドニシテ其銅錢ノ利潤ヲ略筭スルニ三十九
萬ポントトス

造幣局ノ規律及ヒ作業等ニ於テ如何ナル變革ヲ以
テ善トスルヤヲ量察セント欲セバ即次條ノ事件ヲ識得

セシトヲ要スベシ

第一〇千八百十六年第三世ジョージ王在位ノ時ノ規
則ニ從ヘハ惣テ英國ノ造幣局鑄造ノ貨幣ハ倫敦ノ
造幣局ニテ最良ノ貨幣ヲ鑄造センカ為メニ其造幣
局長及ヒ鑄造者トノ契約書ニヨリ定メタル貨幣ノ量
目及ヒ性合ト其量目ノ差同貨幣ヲ正シク同量目ニ鑄造ス
ルト甚タ難キ故ニ量目ニ少シク
輕重ノ差ヒアルト
モ之ヲ許シタリトニ至ル迄皆齊シカラシトヲ要ス可シ但シ
其量目ト性合トハ其契約書ニ記シ且之ヲ以テ當時用
フル名稱ノ金貨ノ一定ノ品位ト為ス可シ又後來他ノ契
約書ニ從ヒ造幣局ニ於テ如何ナル名稱ノ貨幣ヲ鑄造

スルヲアリトモ其貨幣ハ方今ノ貨幣ト一般ノ定規ニ從
ヒ其性合ヨリ量目ニ至ル迄同一ナランヲ要シ其價モ
亦從テ定ム可シ

第二〇千八百十七年第二月六日國王政府ト造幣局
長ロルドマリーボロト新タル條約ヲ結ヒ其書中ニ
量目性合等ハ古來ノ定規ニ從フテ金銀貨幣ヲ鑄造
ス可キ旨ヲ記シタリ

第三〇千八百五十年第十二月十七日英國女王ヨリ
ヘルセル氏ニ免許狀ヲ與ヘ古來ノ規則ニ從ヒ貨幣ヲ鑄
造スルヲ許シタリ

第四〇千八百五十一年第三月七日ノ評議ニテ右ノ免
許狀ヲ廢シ以來造幣局長ハ英國ニテ金銀貨幣ヲ
鑄造スル為メニ設ケタル新法則ノ條件ニ從フテ之ヲ
鑄造スベキノ權ヲ受ケ及ヒ會計局ノ命ヲ受ケ引受人
等ト條約ヲ結ヒ且士官ヲ任スル等ノ諸事ヲ為ス可
キノ命ヲモ受ケタリ

第五〇千八百五十五年第五月女王ヨリガラハム氏ヲ
造幣局長ニ任シタル時與ヘタル免許狀ニ同人ハ何事ニ
因ラズ千八百五十一年第三月七日ノ評議ニテ決定シタル
個條ニ從フ可キ旨ヲ載セタリ

儲會計局ハ造幣局士官ノ進退ヨリ其作業ニ至ル迄
之レヲ司トルノ權カヲ有スル者トス然レモ金銀貨幣ノ
量目ト性合トヲ變革スルノ權ハ更ニ有セサルナリ故ニ議
院ノ許可無クシテハ金貨幣ノ量目ヲ減シ其得ル所ヲ以
其局ノ入費ニ充ル等ノ一ハ決シテ為ス一能ハザル者トス然ルニ
人民貨幣ノ鑄造ヲ得ンカ為メニ造幣局へ金材ヲ携へ來レ
ルヲ造幣局ニテ受取り貨幣ニ鑄造シテ之レヲ渡ス等ノ事
ニ付テノ規則ハ會計局ニテ之レヲ變革スルノ權アリ
造幣局ニ金材ヲ携へ來リテ貨幣ニ鑄造スル一ヲ願フ
一ハ普ク諸人民ニ許可シタリト雖モ方今現ニ造幣局ニ

金材ヲ携へ來ル者ハ唯英國バンク為替座ノミニシテ他ヨリ
携へ來ル者之レ無シトス

英國ノ為替座ニ於テハ何人ニテモ金材ヲ携へ來リテ貨幣ト引
替ヲ願時ハ千八百四十四年ノ法ニ依リ一オンスノ量目毎ニ三
ポンド十七シリング九ペンニーノ貨幣ヲ直ニ其者ニ渡シタリ
然ルニ造幣局ノ方ニテハ金材ヲ携へ來ル者ニ一オンスノ
量目毎ニ三ポンド十七シリング十ペンニー半ノ貨幣ヲ渡ス
ヲ以テ其利潤ヲ比較スル時ハ一オンスノ量目毎ニ現ニ一ペン
ニー半ノ益アリト雖モ其金材ニ代ヘテ鑄造シタル貨幣ヲ
渡スニ餘程ノ遲延アルヲ以テ右一ペンニー半ノ利益ヨリモ

其遲延ニヨリ失フ所更ニ多キカ故ニ英國為替座ヲ除ク
ノ外造幣局ニ金材ヲ携へ來ル者無レトス其レ今鑄造ノ
繁盛ナル外國造幣局ノ證例ヲ以テセハ金材ヲ携へ來レル
者ニ之レニ代ヘテ貨幣ヲ與フルニ其遲延極テ少キヲ得可キ
ナリ

合衆國ニ於テハ金材ヲ鎔解試驗シ畢ルノ後直ニ貨幣
ヲ渡ストトセリ大概三日ノ中ニアリ斯ク遲延少ク貨幣ヲ渡スカ
為メニ合衆國ノ造幣局ニハ常ニ許多ノ金銀ヲ貯蓄ス又
魯西亜ニ於テハ二日後ニ貨幣ヲ渡ストトス

英國ノ造幣局ニ於テ一度ニ受取ル金材ノ高ヲ一萬ポンド

ノ價ニ下ラザルモノナリト一定セントク説アレトモ此規則ハ方
今全ク廢シタリ但シ方今ノ規則ハ左ノ如シ

英國ノ造幣局ニ於テ金材ヲ受取り貨幣ヲ鑄造
スルノ規則

第一〇金貨幣鑄造ノ為メ造幣局ニテ金材ヲ受取
ルハ火曜日木曜日土曜日ノ正午十二字ヨリ午後二
字迄ト定メタリ

第二〇造幣局ニ金材ヲ出シ鑄造ヲ願ハントスル者ハ
一週日前ニ書翰ヲ以テ其旨ヲ造幣局長ニ報知ス可シ
第三〇造幣局ニ金材ヲ出サントスル者ハ金材ノ鑿記

ト且其金材ヲ買ヘルノ時其試験者ヨリ取りタル証書
及ヒ其試験者ノ姓名トヲ二通ノ書面ニ認メ之ヲ差出
ス可シ但シ其書面ノ雛形ハ造幣局ヨリ渡ス可シ

第四〇造幣局ニ金材ヲ渡シタル時其局ノ秤ニテ之ヲ
秤リ其量目ヲ上ニ記載シタル書付二通ニ書入ル可シ

第五〇造幣局ノ上等官吏二員右二通ノ書付ノ未ニ
調印シ其一通ハ之ヲ金材ヲ出セル者ニ與ヘ又一通ハ之ヲ
其局ニ取り置キ造幣局長ノ用ニ供ス可シ

第六〇造幣局ノ試験者其金材ノ試験ヲ為シ畢
リタル後其試験ノ旨ヲ記シタル書付ト造幣局長此金

材ヲ買入レントスル價書トヲ其金材ヲ出セル者ニ差送ル
可シ其者三日間ニ故障申出テサル時ハ其者造幣局長
ノ定メシヲ以テ之レヲ賣ルコトヲ領掌シタルコトシテ其金材
ヲ貨幣ニ鑄造ス可シ

第七〇試験者ノ試験ヲ為シタルニ其金材脆質ニシ
テ缺損シ易ク又ハアイリデウムト云ヘル金属ヲ含ミスハ
以前鎔解ヲ為シタル法悪キヨリ當今之ヲ試験シテ其
價ヲ定メ難ク又ハ之ヲ鎔解シ鑄模ニ掛ケタル後ト雖モ
貨幣ノ鑄造ニ良好ナラザル等ノ事アル時ハ其金材ヲ出
シタル者ニ之ヲ送還ス可シ又諸金材ノ定位ノ價之ヲ一

纏メニ秤リタル総量目ノ價ヨリ少ク其金材ノ一部ヲ全ク
鎔解シテ改製スルニ非ザレバ定位ノ物ト為ス可ラザル時
ハ造幣局長其性合惡キ金材ノ一部ヲ之レヲ出セシ者
ニ送還シ唯良質ノ物ノミヲ受取り之レヲ貨幣ニ鑄造
スルヲ得可キ者トス

第八〇造幣局ノ試験者金材ヲ出シタル者ノ試験
者ノ定メタルヨリ更ニ定價ニ其金材ノ價ヲ定メ之レヲ
出シタル者其價ヲ承諾セザル時ハ局外ノ試験者二名ヲ
撰ヒテ再ヒ其金材ヲ試験セシム可シ但シ此二名ノ試験
者ハ造幣局長自ラ撰擧シテ鑑定セシメ之ヲ最後ノ

試験トシ是等ノ者ノ取極メタル金材定位ノ價ノ受書
ヲ其金材ヲ出シタル者ニ差送ル可シ

第九〇右ノ金材ヲ以テ貨幣ヲ鑄造スルヲ成就セバ
直ニ其旨ヲ金材ヲ出シタル者ニ報告シ其金材ト同量ノ
貨幣ヲ右ノ者ニ給與ス可キ時日ヲ極定ス可シ

右規則ノ如キハ須要ノ諸件猶遺漏多クシテ備ラザルガ
故ニ之レニ注意シテ増補改正スルヲアラハ初メテ完全ノ者ト
ナル可キナリ

造幣局ニ於テ許多ノ元金ヲ儲蓄スルヲアラハ為替座ニテ
均シク金材量目一オンスニ付三ポンド十七シリング九マンニ

ノ價ノ貨幣又ハ之レニ代用スル為替座ノ紙幣ヲ以テ金
材ヲ買入ル、一ヲ得ベシ然ル時ハ為替座ノ如ク金材一
オンズ毎ニ一ペンニー半ノ利潤ヲ得可キ者トス

年々金材ヲ買入レ鑄造スル貨幣ノ高ヲ大概五百万
ポンドト算計セバ右一箇年ノ利潤八千ポンドニ及フ可シ

又為替座ハ試験ヲ為スニ付キ百毎ニ凡ソ十六分ノ百兩ニ付一朱

ニ當ル利潤ヲ得ル者ニシテ金材ノ全價ヲ五百万ポンドト

スル時ハ其利潤ノ高三千百二十五ポンドナリ又秤量ノ

事ニ付キ其得ル所ノ利潤金材一箇毎ニ大抵十二ペンニー

宛ニシテ金材ノ全價五百万ポンドナル時ハ其利潤三百

三十三ポンドナリ

為替座ニテ金材試験ニ付キ算計中ニ加入スル所ハガラ

トト 純金ヲ廿四トシ其カ
四分ノ一ヲ云フノ八分一迄ノ量目ニシテ其餘ハ之レヲ

算計セス皆為替座ノ利得トス又為替座ニテ金材ノ秤

量ニ付算計ノ中ニ加入スル所ハトロイ法ノ十二ゲレインノ量

目ニ至ル迄ソニシテ其餘ハ為替座ノ利得ト為スヲ以テ為替

座ニテ金材ヲ買入ル、毎ニ其得ル所ノ中數ハ金材一箇ニ付

六ゲレインナリトス

前々述ルガ如ク為替座ニ於テハ試験ト秤量トニヨリ利

ヲ得ルノ故ハ造幣局ニテハ其受取りタル金材ノ全量ヲ

精算シ全價ヲ償フト雖モ為替坐ニ於テハ右等ノ一無ク
其細密ノ量目ハ之レヲ自己ノ利潤トスル一有ルヲ以テナリ
造幣局ニ於テハ試験ト量目トノ利潤ヲ除キ取ラズシテ
金材ヲ出セル者ニ為替坐ノ與フル所ヨリモ更ニ餘分ノ利
潤ヲ與フルト雖モ尚為替座ノ得ル所ノ八千ポンド許ノ利ヲ
得ル一アルベシ

諸金材ヲ受取ルトニ付テハ嚴密ナル規律ヲ設ル一肝要ニ
シテ此規律ヲ以テ造幣局ニ夥多ノ金材ヲ出シ造幣局ノ
作業ヲ專ラニスル者ヲ禁シ且差出シタル金材ノ多寡ニ應シ
貨幣ヲ以テ其價ヲ償フ可キ時日ノ遲速ヲ定ムベシ但シ右

等ノ規律行ハル、時ハ其時宜ニ應シ一週間ニ百萬ポンド
ノ貨幣ヲ鑄造スル一ヲモ得可ク又輸入少キ時ハ試験畢
ルノ後兩三日間ニ全ク其價ヲ償フ一亦容易ナルベシ

上ニ記載シタル所ニ似タル規則ハ千八百二十九年第三月ル
リース氏造幣局長ニ在職ノ時行フタル一アリテ政府ノ所
有セル銀材十五萬ポンドヲ金貨幣ト兌換シテ為替座
ニ賣リ之レヲ以テ造幣局ノ元金ト為シ置キ諸民金材ヲ
造幣局ニ出シ鑄造ヲ願フ者ノ便利ト為サシメタリ

造幣局へ携へ來ル金材ノ價四分ノ三八其金材一オンス
ニ付キ三ポンド十七シルリング十ペンニー半ノ造幣局ノ定

價ヲ以テ直ニ之レヲ携へ来レル者ニ渡シ其残額ハ試験濟
ノ上直ニ之レヲ償フタリ蓋シ此法ノ如キハ宜シキヲ得タル者ト
雖モ不幸ニシテ千八百三十一年第四月三十日ニ廢止シ
造幣ノ元金ヲモ會計局ニ還シタリ其故ハ前記スルガ如キ
夥多ノ金材ヲ出スヲ禁スル規律無キヲ以テ遂ニロッチマイル
ド氏ノ如キ豪家造幣局ニ夥多ノ金材ヲ出シ一人ニテ造
幣局ノ作業ヲ專ニシ少量ノ金材ヲ出サントスル者遂ニ之
レヲ出スヲ能ハサルニ至リシヲ以テナリ

儲又造幣局為替座ト共ニ金材ノ買主トナル時ハ造幣局
ハ為替座ニ匹敵スルヲ得ベキヤ否其確實ヲ徴スル能ハズ

今其概畧ヲ左ニ示サン

為替座ハ千八百四十四年ノ規律ニ從ヒ其受取りタル金材
一オンス毎ニ三ポンド十七シリング九ペンニーノ定リタル割合
ヲ以テ買入ル可シ然レトモ為替座ハ金ヲ受取タルニ替ヘテ
紙幣ヲ發出スルノ權ヲ有スル者ニシテ其金材ノ量目ト
性合トヲ精密ニ試験シ畢ル後ニ償フ可キ残價ノ外ハ
皆紙幣ニテ之レヲ償フヲ以テ通例トセリ故ニ造幣局ヲ
シテ為替座同様ノ利潤ヲ携へ来レル者ニ与ヘシメントスルニハ
必ス許多ノ元金ヲ其局ニ貯蓄スルニ在ルベシ儲又其元金
ノ貯蓄十分ナリト雖モ亦造幣局ニ於テハ他ノ故障ヲ

生スル一アリ何トナレハ時價ノ高下ニ隨ヒ甚タ過多ノ金材
ヲ造幣局ニ携へ來レル一アリ又携へ來ル一全ク止ミテ
鑄造ノ金材ヲ欠ルノ事アルヲ以テナリ
為替座ニ於テハ是等
ノ故障全ク之レ無キ者トス
又造幣局ニテ金材ヲ買入ル、時ハ貨幣鑄造ノ高及ヒ其
増減等ヲ斟酌スルノ諸務ニ於テモ亦其局ニ於テ之レヲ任
ス可シ蓋シ此諸務ノ如キ為替座ニ於テハ多量ノ金銀貨
幣ヲ所有シ之レヲ標準トシテ其諸務ヲ為スニヨリ之レヲ
処置スルニ極メテ容易ク且精密ナル一ヲ得ベシ造幣局ハ
此ノ如キノ標準無キヲ以テ金貨幣ヲ鑄造スルト為サザル
トノ多寡ヲ斟酌シテ宜シキヲ得ル能ハザルナリ

為替座ニ於テハ金材ヲ貨幣ト為スニ其費用全ク之レ
無キ者ナレバ其諸民ヨリ金材ヲ買入ル、價ト之レヲ貨幣ト
為シテ造幣局ヨリ受取ル價トノ差ヒヨリ一ペンニー半ノ
利潤ヲ為替座ニテ得ヘキノ道理之レ無キ者トス又政府ハ
鑄造ニ付キ諸入費ヲ給スルカ故ニ右ノ利潤ヲ為替座ニ
与ル一無ク造幣局ニ得ル一當然タルベシ但シ此利潤ハ五百
万ポンドノ貨幣ヲ鑄造スルニ付キ八千ポンドナリトス斯ク
一フランスノ量目毎ニ一ペンニー半ノ利潤ハ實ニ之レヲ造幣
局費用ノ為メニ取収ムベキ一當然ニシテ為替座ニ於テハ
決シテ之レヲ得ントスルノ理無ル可キナリ

政府ニ於テ貨幣ノ鑄造ニ付キ造幣局ニ得可キ利潤ヲ
定メント欲セハ其利潤ノ高如何程ナルヤヲ考察スルノ肝
要タルベシ蓋シ其高ハ方今為替座ニ收納スル利潤ニ循ヒ
定ムルヲ良シトス既ニ前文ニ記シタル如ク為替座ニ於テハ一
オンズノ量目毎ニ一ペニー半ノ利潤ヲ得ルヲ以テ五百万
ポンドノ貨幣ヲ鑄造スルニ付キ一ケ年八千ポンドノ利ヲ収
ムルノ外秤量及ヒ試験等ニ付キ又一ケ年ニ凡三千五百ポンド
ノ利潤ヲ收納セリ此二個ノ利潤ヲ合算スル時ハ一個年ニ
一万千五百ポンドニシテ百分ノ一ヲ四個ニ割リタル一分
飯令ハ我百兩ニ付キ金一分ニ當ルニ及ハサル程ノ利潤トス可シ若シ又造幣局ニ収

金花堂

納スル所ヲ正シク百分ノ一ヲ四個ニ割リタルノ利潤ト為サハ
為替座ニ收納スル利潤ニ恰モ均シク其高一個年ニ一万二
千五百ポンドニ及フ可クシテ其局總入費ノ半ハヲ補フニ足ル
可シ

第二世チャールズ王在位中千六百六十六年ニ決定シ第三世
ジョージ王在位中ニ於テ永世ノ常規ト決定シタル貨幣ノ
法律ハ造幣局ニテ鑄造試験等ニ付キ決シテ利潤ヲ取ラサ
ル旨ヲ定メタルニヨリ前述スルガ如キ利潤ヲ得ントハ議院ノ
許可ヲ得ルニ非レハ為ス可カラス儲千八百五十一年迄ハ為替
座ヨリ造幣局ノ試験者ニ金材一個ニ付キニシリングノ割

合ヲ以テ俸金ヲ與ヘ又造幣局ニ金材ヲ運輸スル者ニハ其
金材一個ニ付キ三ペンニーノ賃錢ヲ與ヘタルカ此賃錢ハ一オン
ス毎ニシルリングノ八分一ニシテ五百万ポンドノ貨幣ヲ鑄造セ
ントニハ其費用凡ソ七百八十ポンドノ金高ニ及フ可シ造幣局
ニ於テハ金材ノ買主ト為ル許可ヲ得タルト得サルトヲ論セス此
金材ヲ試験スル當今ノ法則ヲ改正セン_ト須要タル可シ
方今貨幣鑄造ノ為メ金材ヲ造幣局ニ携來レル時ハ之ヲ其
在局ノ試験者ニ命シ之ヲ驗セシム可シ然_{トモ}貨幣ヲ鑄造セ
ンガ為メ之レヲ鎔解シテ參和物ヲ加ヘ其金材ヨリ切取リタル
小片ト既ニ製造シタル金貨幣中ヨリ撰出シタル金貨幣トハ

局外ノ試験者ニ命シテ再ヒ之ヲ試験セシム可シ但シ此試験
者ハ有名ナル分析家ニシテ其試験毎ニ俸金ヲ與フ可シ斯ク
局外ノ試験者ニ驗セシムルノ法ハ其法ヲ設ケタル者ノ過チヨリ
起リタル_トニシテ最モ繁雜ヲ免レサルガ故ニ之ヲ改メントニハ其局
内ノ試験者ノ外ニ一人ノ試験者ヲ局内ニ設ケ置ク可シ但シ其
新タニ設ケル局内ノ試験者ハ是迄設ケタル所ノ局内ノ試験
者トハ其職掌ト名義トヲ異ニシテ是迄局外ノ試験者ノ行
フ所ノ職務ヲ更ニ速ニ且入費少クシテ為ス可キ者トス可シ
若シ局内ノ試験者ノミノ決定ニテハ猶疑ハシキ事有ル時ハ
局外ノ試験者ニ囑シテ決定セシム可シ

方今ノ景状ニ依テ造幣局處置ノ基本ヲ論スルニ政府ノ士
官及ヒ鑄造者ニテ金材ヲ鎔解シ貨幣ヲ鑄造スルヲ以テ
良トスルヤ又ハ政府ノ監督ヲ以テ引受人之ヲ為スルヲ良トスル
ヤヲ熟考セサルヲ得ス

佛蘭西比利時以太利以國ノ為替座ハ政府ト條約ヲ為シ貨幣鑄
造ヲ引受ル者ナリ

和蘭等ニ於テハ其士民政府ト條約ヲ結ヒ貨幣鑄造ヲ引受
ケヲ為ス者トス

又合衆國魯西亞普魯士連國西班牙瑞士及ヒ其他ノ諸
國ノ如キハ貨幣ノ鑄造ニ於ル恰モ英國ノ如ク其政府專ラ
之ヲ掌握シタリ

倫敦ヒラデルヒヤ合衆國ノ一都府聖彼得堡等ニ於テハ其政府ノ

造幣局ヨリ出シタル貨幣ハ其製造ト性合トニ於テ甚ク最
好良品タル者トセリ

英國ニ於テハ千八百五十一年以降政府ニテ貨幣鑄造ヲ掌
握スルノ法ヲ施行シ造幣局ハ熟練ノ士官及ヒ鑄造者之有
ルヲ以テ英國ノ貨幣ヲ以テ他國ノ貨幣ノ其性合製造ニ以
較スル時ハ英國ノ貨幣最モ勝レル者トス斯ク勝レル所以ハ全ク
其局鑄造ノ器械精巧ナルノ故ニ非ス政府專ラ鑄造ノ事ヲ
掌握スルカ為メニ惡金ヲ鑄造者ヨリ出スルヲ得サルニ依テナリ
但シ惡金ノ鑄造シタル者ニハ俸金ヲ與ヘサルハ鑄造者ヲシテ獎

勵シ其務ヲ勉強セシムルニ於テ甚タ良法トスベク且政府ノ命
ヲ奉シ金材ノ鎔解及ヒ貨幣ノ鑄造ヲ司トル士官ニ於テモ
政府ト士民ト條約ヲ為シ貨幣ノ鑄造ヲ引受タル時ノ如ク量
目不足ニシテ且製造麁惡ナルノ貨幣ヲ監察局ニ送り自己ノ
利潤ヲ為スコトヲ得サルナリ

又貨幣一枚ノ量目ニ付キ官許ニテ一定シタル量目ノ差ヒハ一
グレインノ四分一ノ割合トス然レモ方今鑄造シタル八百万ポンド
ノ内過半ハ一グレイン六分一強ノ割合ノ差ヒニシテ右一定ノ差ヒ
ヨリモ猶少ク且此貨幣ヲ精巧ノ秤ニテ秤ルト雖モ改鑄スベ
キ貨幣ノ數ハ其貨幣ノ全數ノ一割五分五厘ニ至レリトス

英國造幣局ノ入費ノ金高ヲ外國ノ政府ト平民トノ條約ニ
テ引受タル造幣局ノ入費ノ金高ニ比較スル時ハ其入費較少
シ故ニ其局ノ取扱方宜シキヲ得ハ其費用更ニ減スルノ疑無ル
ベシ既ニ前文ニ記タル如ク其局ニテ銅錢ヲ鑄造シタル時入費ノ
金高八千八百六十一年引受人ニテ之ヲ鑄造シタル時ノ金高ヨリ
甚タ減少シタリ之レニ依テ推察セバ其金銀貨幣鑄造ニ於テ
モ必ス其費用ノ金高減スルコトヲ得ベキナリ

又引受人ニ鑄造ヲ任スルノ法ニテハ猶政府ノ士官ニ命シ鑄造ノ
諸務ヲ監察セシメテ要ス可シ故ニ英國ノ造幣局ニテモ我邦
ノ造幣局ニテモ此法ニ依ル時ハ鑄模或ハ鑄造器械ヲ決シテ

引受人ニ付託スルノ無ク之ヲ政府ノ士官ニ付託シ且此士官ハ其引受人ノ作業ヲ監察スルヲ以テ其士官自ラ作業ヲ為タル時ト同様ノ費用有ルベシ故ニ英國造幣局入費ノ總計ハ二箇年ニ付キ二万五千ポンドノ金高ヨリ増スノ無カリシガ佛國造幣局ノ入費ハ鑄造スベキ金銀一キログラムニ付キ其引受人ニ與フベキ若干ノ利潤ノ外其上ニ一万一千ポンドナリトス是レ英國造幣局ノ費用ニ比スレハ更ニ多量ナリトシ現ニ佛國造幣局ノ入費ノ金高ト殆ンド齊シカルベシ故ニ引受人ニテ貨幣鑄造セシムルノ法ハ直ニ政府ノ掌握ニテ鑄造スルノ法ヨリモ更ニ其入費ヲ省クベキヲ知ルベシ

政府ノ掌握ニテ鑄造スルノ法ニテハ最良純一ノ貨幣鑄造ヲ得ベキトハ數年來ノ經驗ニテ自ラ瞭然タルベキノミナラズ又其莫大ノ利益アルベキナリ夫レ政府ノ掌握ノ法ハ貨幣ノ鑄造ヲ以テ國家ノ一大要件ト為シ其費用ヲ省キ且最良純一ノ貨幣ヲ製造セント欲スルノ自然ノ勢タルベキニ引受人ニ鑄造ヲ委任スルノ法ニテハ之レト異ニシテ其引受人ノ商業ノ目的及ヒ自己ノ利潤ヲ計リテ鑄造スルノ有リ既ニ是等ノ弊ハ今多ク他邦ニ行ハルノニシテ如何ニ政府ヨリ監督シテ之ヲ禁スルトモ全ク御クノ能ハズシテ衆庶ノ害トナリ造幣局ノ名譽ヲ貶スモノト謂フベシ

千八百四十八年造幣局委任官吏ヨリノ建言ニ是迄其局ニ
於テ專ラ採用シタル造幣局長ノ規則書ヲ廢シ議院ノ許
可ヲ得テ會計局長官ノ許容シタル精詳整密ナル規律書
ヲ採用センコトヲ陳述シタリ

此建言ノ如キ採用スベキ至當ノ事ナルニ依リテ千八百五十
一年第三月七日ノ女王ノ命令書ニテ造幣局ノ取扱ヒ及ヒ
貨幣鑄造ノ規則等自今皆會計局ノ下知ニ從フ可キ旨ヲ
命シタリ之レニ依テ造幣局從來ノ規則書ニ記シタル古來ヨリ
ノ法式盡ク廢スルニ至レリ然レトモ是迄造幣局長ニ許容シ
タル貨幣量目ノ差ヒニ付キ鑄造ノ法ヲ改ムルヲ能ハザリシ畢

竟是迄ノ貨幣量目ノ差ヒハ無益ニ多キヲ以テノ故ニ其重
量ノ者ヲ鎔解セントスルノ弊害アリ蓋シ其貨幣ノ量目ノ差
ヒ千八百十六年ニ定メタル法ニ依リ當時採用セル造幣局ノ
規則書ニ記載シタル者ナリ

貨幣ヲ純一ニ製センガ為メ輒近ニ至リ往時ノ鑄造術ヲ變
革スルニ及フト雖モ猶千毎ニ二ノ割合ヨリ更ニ大ナル差ヒヲ依
然トシテ採用シタリ但シ會計局ハ造幣局長ハ務メテ定位ニ
循ヒ貨幣ヲ鑄造スベキ旨ヲ布令スルノ權有ルヲ固ヨリ當
然トス然レトモ貨幣ヲ純一ニ製セントハ其定リタル差ヒヲ
大ニ減少スルコトヲ以テ緊要トスルニ在リ又此貨幣鑄造ノ

法ヲ变革セントスルニ付キテハ一ノ條理ヲ立テザルヲ得ス其
理ハ政府ニテ貨幣ヲ鑄造スルニ付キ職務ヲ普ク衆人ニ
諒知セシムルニ在リ又造幣局ヲ設クル基律及ヒ方今議
院ノ法律書造幣局長ノ規則書女王ノ命令書會計局
ノ規則書等ヲ以テ全ク議院ノ一通ノ法律書中ニ纂輯スル
ヲ良トス

造幣局建造ノ一ニ付キテモ亦注意ス可キ一アリ方今其建
造巨大ニ過ルニヨリ修理ノ費用少カラス又其造幣局ノ地所
ハ倫敦府ノ中繁華ノ地タリト雖モ貨幣鑄造ノ為メニ甚
タ不便ナルカ故ニ其局ヲ方今ノ家屋ヨリ狭少ノ家屋ニ移轉

セハ假令其便利ヲ増ス一無シトモ更ニ不便ナル一ハ決シテ之レ
無ルベクシテ殊ニ其費用ヲ減スル一疑ヒ無ケン諸其場一所ハ
ソムメルセツト、ハウス解舎ノ名ニ在ル海軍局ノ出張所ヲシテ他所
ニ轉シ造幣局ノ全局ヲ右ノ跡へ移轉セハ更ニ便利ヲ増シ且
造幣局ノ諸官員ノ住居ニ備へ造幣局ノ作業ヲ盛大ニスル
ニ適當ナルベシ又方今造幣局有ル地ハ倫敦ノトウエルヒルニ
在リテ甚タ不便利ナルニ右ノソムメルセツト、ハウスニ轉スル時ハエ
ストエントノ官舎トシチイトノ中央ノ地ナルヲ以テ大ニ其便利
ヲ増ス可キナリ

千八百六十九年第十一月九日

シ、ウイ、フレマントル華押

シ、リウルス、ウエルソン華押

造幣局ノ規則ヲ改革シ其費用ヲ減スルニ付テ
ノ附録

以前造幣局長會計局ノ布令ニ從ヒ其造幣局長
局内ノ上等書記官ノ員數ヲ減シ且録事兼會計方
ヲ廢シ千八百五十一年迄ノ如ク局長附属書記官ヲレテ
録事ノ當時行フ所ノ職務ヲ兼勤セシメ且局長附属ノ
書記官ハ此迄受取りタル五十ポンドノ俸金ヲ自今ヨリ百
ポンドニ増加スルヲ良トス且録事ノ缺員ニハ他人ヲ以テ之レニ
補任スルニ及ハス唯一ケ年ニ八十五ポンドノ俸金ニテ筆者ヲ
任用スルヲ緊要ナル可シ但シ之ニ依リテ費用ノ減スルヲ一ケ年

ニ三百五十ポンドナリトス造幣局中ノ工作局ニテ上等ノ
 士官ハ鑄造及ヒ鑄模ニ関スル監督者一人及ヒ上等ノ書記官
 兼鑄解者一人アレトモ今其書記官兼鑄解者ヲ廢シ貨
 幣ノ鑄造局金屬鑄解局及ヒ鑄模局等ヲ總括スル監督
 者一名ヲ命スルヲ良トス然ル時ハ一ケ年ニ五百ポンドノ費用ヲ
 減ズ可シ但シ其工作局ノ事務ニカヲ假ス可キ者筆者ヲ任
 スルヲ必用トス可シ。

下ニ揭示シタル表ハ造幣局中ノ工作局ト事務局トニ方
 今在勤ノ諸官員ヲ記シ及ヒ之レヲ減負ス可キ見込書
 ナリ

現今在職ノ官員

造幣局長 一人 一ケ年ニ付俸金千五百ポンド
 造幣局長名代兼監督一人同 八百ポンド

事務局

上等書記官 一人 四百ポンド
 同 同 二百ポンド
 録事兼會計方 同 四百ポンド
 局長附屬ノ書記官 但シ下等ノ書記官ニシテ一ケ
 年ニ五十ポンドノ別改俸金
 ルヲ受 同 同 三百ポンド
 別格書記官 同 同 百八十ポンド

筆者

同

同

八十五ポンド

鑄造及ヒ鑄模局

監督者

一個年ニ俸金四百ポンドヨリ六百ポンド迄ニ至ル

同

同

四百ポンド

下等書記官

同

同

百三十ポンド

鑄解局

上等書記官兼鑄解者

同

同

五百ポンド

下等書記官

同

同

二百五十ポンド

試験局

金花堂

在局試験方

同

同

五百ポンド

下等書記官

同

同

二百五十ポンド

總官負十四人俸金ノ惣計五千九百五十五

ポンド

改正見込ノ表

造幣局長

一人

一ケ年ニ付俸金千五百ポンド

造幣局長名代兼監督

一人

一ケ年ニ付俸金八百ポンド

事務局

上等書記官

同

同

四百ポンド

同 同 二百六十ポンド

局長附属書記官 但シ下等ノ書記官ニシテ一ケ年ニ百ポンド別段ノ俸金

ルヲ受 同 同 三百五十ポンド

別格書記官 同 同 百八十ポンド

筆者 同 同 八十五ポンド

工務局

監督者 一個年ニ俸金四百ポンドヨリ六百ポンドニ至ル

同 同 四百ポンド

下等書記官 銘解ノ事ニ掛ル者

同 同 二百五十ポンド

下等書記官 鑄造ノ事ニ掛ル者

同 同 百三十ポンド

筆者 同 同 八十五ポンド

試験局

在局試験方 同 同 五百ポンド

下等試験方 同 同 二百五十ポンド

総官員十三人俸金總計五千百九十ポンド

今在職官員ノ俸金總計五千九百五十五ポンドヨリ

改正職員ノ俸金總計五千百九十ポンドヲ差引テ

費用ヲ減スル事七百六十五ポンドトナレリ

上ニ擧タル改正ノ表ニハ造幣局長及ヒ其局長ノ名代兼監督者ヲ現今ノ如ク任シ置キ局長ニハ一個年ニ千五百ポンドノ俸金ヲ給シ局長ノ名代兼監督者ニハ八百ポンドヨリ千ポンド迄ノ俸金ヲ給スベシ然レドモ若シ其局長造幣ノ諸務ニ熟達シ特ニ已レノ取扱フ可キ細事等迄通曉シ速ニ之レヲ處置スルコトヲ得可キ者ナル時ハ其名代兼監督者ノ職務ヲ廢スルコトヲ得ベシ然ラハ其官吏ノ俸金ノ高一個年ニ八百ポンドノ費ヲ省ク可シ

造幣局長名代ノ職務ヲ廢スルニ及ンデハ造幣局長不在ノ時間上等書記官一人ヲ以テ書記官ノ長ニ任シテ其俸金ヲ

増シ局長ニ代テ細務ヲ勤メシム可シ
鑄造局ノ工夫ニ給スル俸金ニ於テモ亦改革センコトヲ要スベシ
現今各鑄造局工夫ノ俸金ハ製造シタル貨幣ノ千枚毎ニニ
シリングハペンニーニシテ若シ其局休業ノ時ニハ一週間ニ工夫ハ六
シリングヨリ十シリング迄ノ扶助金ヲ得兒童ハ三シリング
ノ扶助金ヲ得ルコトセリ蓋シ工夫ハ其局ニテ作業ヲ為ス時間
ト雖モ絶ヘズ此扶助金ヲ得兒童ハ之レヲ得ザルナリ既ニ前三年
間工夫ト兒童トノ俸金ヲ合算スルニ一ケ年大概三千二百九十
ポンドニシテ其局一年間休業ノ時ヲ只三週ナリトス
此法ニテハ現ニ弊害アルコト明瞭タリ何トナレハ造幣局作業ヲ

為スノ時ニ於テ一週間ニ付キ工夫ハ二ポンド十五シリング第一等
児童ハ一ポンド十六シリング第二等児童ハ十八シリングヲ受
ケ又全ク作業ヲ為サル時ニ於テハ右ノ工夫児童等ノ得ル所ノ
扶助金此少ニシテ其生計ヲ營ミ難キヲ以テ已ムヲ得ズ他ニ
生計ノ道ヲ立テザルヲ得ズ其休業ノ間ニ活計ニ注意セザル
工夫等ハ後ニ負債ヲ為シ又熟達ノ工夫ハ他ニ趣テ業ヲ為シ
活計ヲ得ル等ノ事有ルヲ以テ造幣局ニテハ遂ニ是等ノ工夫
ヲ用フルト能ハザルニ至ルベシ斯ク其法ニ弊害アルヲ以テ千八百
六十七年造幣局ノ休業ノ時間會計局ニテ造幣局長ノ建
言ニ從ヒ其休業ノ間毎週工夫ノ扶助金二十四シリング児童

ノ扶助金十二シリングヲ給シテ之レカ救恤ヲ為シタリ蓋シ前
法ニテハ休業ノ間工夫等ノ窮迫スルヲ造幣局ノ士官等之ヲ
愍然ニ思ヒ務メテ休業ノ日数ヲ少ナカンラカ為メニ殊更ニ
其作業ヲ延シ以テ鑄造ノ成功ヲ大ニ遅延セシメタリ
余カ説ニテハ自今金銀ノ良貨幣ヲ鑄造シタル者ノ俸金ヲ
其貨幣千枚毎ニ一シリング九ペニーニ減シ又一ペニーノ銅錢
毎頓ニ其俸金ヲ二ポンド十シリング半ペニーノ銅錢毎頓
ニ三ポンド十シリング、ペンニー四分ノ一ノ銅錢毎頓ニ七ポンドニ
減スルトヲ以テ宜シカルベシトス
斯ク作業ヲ為ス時ノ俸金ヲ減シタルノ償ヒトシテ其俸金ノ

外工夫ハ常ニ毎週一ポンドノ扶助金ヲ受ケ又児童ハ十シリング
ノ扶助金ヲ受ケ又三ヶ年以上勤メタル後ニハ毎週十五シリング
ヲ得シム可シ然レテ鑄造局工夫總長ハ此規則外ノ者ニシテ其
内一人ハ毎週一ポンド十シリングヲ得其他ノ五人ハ毎週一ポンド
五シリングヲ得セシム可シ但シ是等ノ扶助金ハ工夫ト児童ト
ヲ論セス造幣局作業ノ時モ又休業ノ時モ常ニ給與ス可キ
モノトスレハ彼児童等其局ノ作業ノ有無ヲ問ハス毎週十分ニ
生計ヲ立ルニ足ルベキノ金ヲ受ク可キナリ

右ノ法ニ改正セハ其入費ヲ省ク一ハ總カ一ヶ年ニ大概百ポンド
ナリト雖モ必ス上ニ記載シタル弊害ヲ除去スル一ヲ得且鑄

造スル貨幣ノ高ニ應レテ毎年ノ費用ヲ省クノ利益アル可シ
鑄解局ニテ使用スル工夫ノ俸金及ヒ扶助金ノ法モ亦前文ニ
均シク改革スル一ヲ要ス可シ但シ此局ニ於テハ唯六人ノ工夫ヲ用ル
ノコト

前ニ記シタル造幣局備忘記ハ現今用フル所ノ金銀試験ノ
法ヲモ亦改革ス可キ旨ヲ既ニ説明シタリ

方今貨幣鑄造ノ為メ買入ル、金材及ヒ金銀貨幣ハ造幣
局内ニ在ル試験者ニ属シテ之ヲ試験セシメ其試験毎ニ之ニ俸
金ヲ給スベシ但シ此俸金ハ元來ニシリング六ペニーナリシカ千
八百六十八年造幣局長ノ建言ニ依リ毎年最初ニ千度ノ試

驗ニ付キ右ノ俸金ヲ四シルリング六ペニーニ増シタリ且此割合
ヲ以テ算計セハ試験者ノ受ル所ノ金高ハ大概一ケ年ニ付キ千
二百七十八ポンドナリトス諸余輩熟思スルニ局外ノ試験者ヲ
廢シ之レニ代ヘテ在局第二等ノ試験者ヲ任シ之レニ一ケ年ニ付キ
四百ポンドヨリ五百ポンド迄ノ俸金ヲ給シ且其補助トシテ一ケ年
百ポンドヨリ二百五十ポンド迄ノ俸金ヲ得ル上等書記官ト一ケ
年七十ポンドノ俸金ヲ得ル附属官トヲ置ク可シ但シ此在局
ノ試験者ノ職ニ缺負アル時ハ之レニ均シク一ケ年ニ四百ポンド
ヨリ五百ポンド迄ノ俸金ヲ得ヘキ其後職ノ者ヲ任ス可シ斯ク
取計フ時ハ一ケ年ニ五百七十ポンドノ費用アリト雖モ又一ケ年ニ

七百ポンドノ費用ヲ省クコトアリ蓋シ又第二等ノ試験局ヲ
復スルコト有リテ必要ナル薪炭ヨリ諸器械等迄ノ年々ノ費
用ヲ供スル時ハ又稍ク其費用ヲ増スト雖モ是極メテ些少ニ
シテ敢テ算計スルニ及ハサル程ナル可シ

又造幣局ノ圍入地ヲ守番スルノ事ニ付キ改革ヲ加フ可キノ
條件アリ現今ハ巡警官吏一人巡卒六人ニ其局ヨリ一個年ニ六
百ポンドノ俸金ヲ與ヘ其職ヲ務メシメ又是等ノ者ノ外番
卒八名アリテ内五名ハ夜警ヲ任シ他ノ三名ハ昼警ヲ任シ其
家屋ノ周圍ヲ巡行セシメタリ然ルニ此巡卒ニ代ヘテ昼間守門
ノ職ヲ執レル門監一名ト夜間ノ警卒二名トヲ任スルヲ良トス但

レ其警卒ノ一名ハ夜間守門ノ職ヲ執リ他ノ一名ハ其局ノ圍
入地巡邏ノ職ニ任ス可シ蓋シ夜間警卒巡邏シタルヲ證スル
カ為メニテルテールダイルス 恰モ時辰票ノ如ク一字ヨリ十二字迄ノ
数字ヲ記シ時刻ヲ知ルガ為メニ製シタル
器械ナリ然レモ通常ノ時辰票ト異ニシテ自轉スルヲ無ク警卒巡邏
ヲ為ス毎ニ其時刻ノ所ニ右器械ノ票針ヲ移シ置キ巡邏シタル時ノ時刻ヲ
知ラシムルヲ證スル 若トス ヲ所々ノ墻塹ニ懸ケ置ク可シ諸守門卒ト
夜警卒トノ俸金ハ一ケ年ニ二百三十ポンドノ金高トス故ニ前
文ニ記シタル六百ポンドノ俸金ヨリモ三百七十ポンドノ金高ヲ
減ス可シ

千八百六十九年第三月及ヒ第五月ノ造幣局長ノ建言ニ後ヒ
鑄造局及ヒ鑄模局監督ノ俸金ヲ一ケ年ニ付キ百ポント

程モ減シ且上等書記官及ヒ一時假リニ任シタル書記官三
名並ニ工夫工名ヲ既ニ廢シタルニ依リ其局ノ入費一ケ年千百
二十ポンドヲ減シタリ又會計局ノ命ニテ造幣局ノ下等書
記官ノ職ヲ廢シ之レニ代ヘテ筆者一人ヲ置ント決議シタリ因テ
又其入費尚少ク總計一ケ年ニ付キ千三百三十五ポンドノ金高
ヲ減スルヲ得タリ
前文ニ述タル説ヲ採用スルニ及ンデハ本年ヨリ次條ノ如ク其入
費ヲ減スベシ

士官及ヒ器械者ノ俸金ヲ減スル事

二千百ポンド

工夫ノ俸金ヲ減スル事

百ポンド

試験局ノ入費ヲ減スル事

七百ポンド

守衛ノ者ノ俸金ヲ減スル事

三百七十ポンド

總計三千二百七十ポンドヲ減ス

右ノ外若シ造幣局長名代ノ職ヲ廢スル時ハ總計四千七十

ポンドノ金高ヲ減スルヲ得ベシ

前ニ記スル所ノ備忘記ニテハ後來英國造幣局ノ費用ヲ

總計スルニケ年二万五千ポンドノ金高ナル可シ然ルニ方今

現ニ費ス所ハ千八百六十九年ヨリ翌七十年マテ一個年ノ間三万

五百五十ポンドナリトス然シテ磨減シタル銀貨幣ヲ改鑄スルノ

入費一万五千ポンドハ此費用ノ外ニアリ

金花堂

然レ凡千八百七十年ヨリ翌七十一年迄ノ一ケ年ノ算計書ハ

其前一ケ年ノ目錄ニ記シタル所ノ費用ノ各條ヲ多ク脱漏シ

タリ蓋シ其入費ノ各條トハ即チ次ノ件々ニシテ第一ニ夥多

ノ貨幣ヲ鑄造セントノ目論見ニテ局外ノ試験者ニ甚ク許

多ノ俸金ヲ與フルニ充ツヘキ費用高第二ニハ新タニ器械ヲ

買入レ且之レヲ修繕スル等ノ費用高

時ハ新タニ器械ヲ買入レ又ハ修繕ヲ
加フル等ノ費ハ無益ナルニ近シ

費用ナリ是等ノ件々ハ殆ント惣計三千ポンドニ至ル可キヲ

以テ其費ヲ廢シ且官負ノ俸金ヲモ減省スル時ハケ年ノ費

用凡ソ二万六千五百ポンドニ減ス可シ特ニ余カ今此覚書ニ記

スル所ノ減省法全ク行ナハルニ於テハ一ケ年ノ費用二万四千五百ポンドニ減スルヲ得可シ

儲造幣局ノ事ニ付キ大畧其論説ヲ終ルト雖モ尚爰ニ説明セサルヲ得サルノ一事件アリ扱其事件トハ是レ迄英國ノ造幣局ニテ外國政府ヨリノ屬託ヲ受ケ外國ノ貨幣ヲ鑄造スルヲ肯ゼザリシガ此一事ハ全ク道理無キトス可キナリ既ニ先年外國ノ貨幣ヲ鑄造センカ為メ英國ビルミングハムニ於テ外國政府ト約定ヲ為シテ其鑄造ヲ引受ケ許多ノ利潤ヲ得タルヲアリ加之又政府ノ造幣局モ間々作業無クシテ徒ラニ休業ヲ及リアレハ其器械ハ固ヨリ十分ニ具ハレルヲ以テ外

金花堂

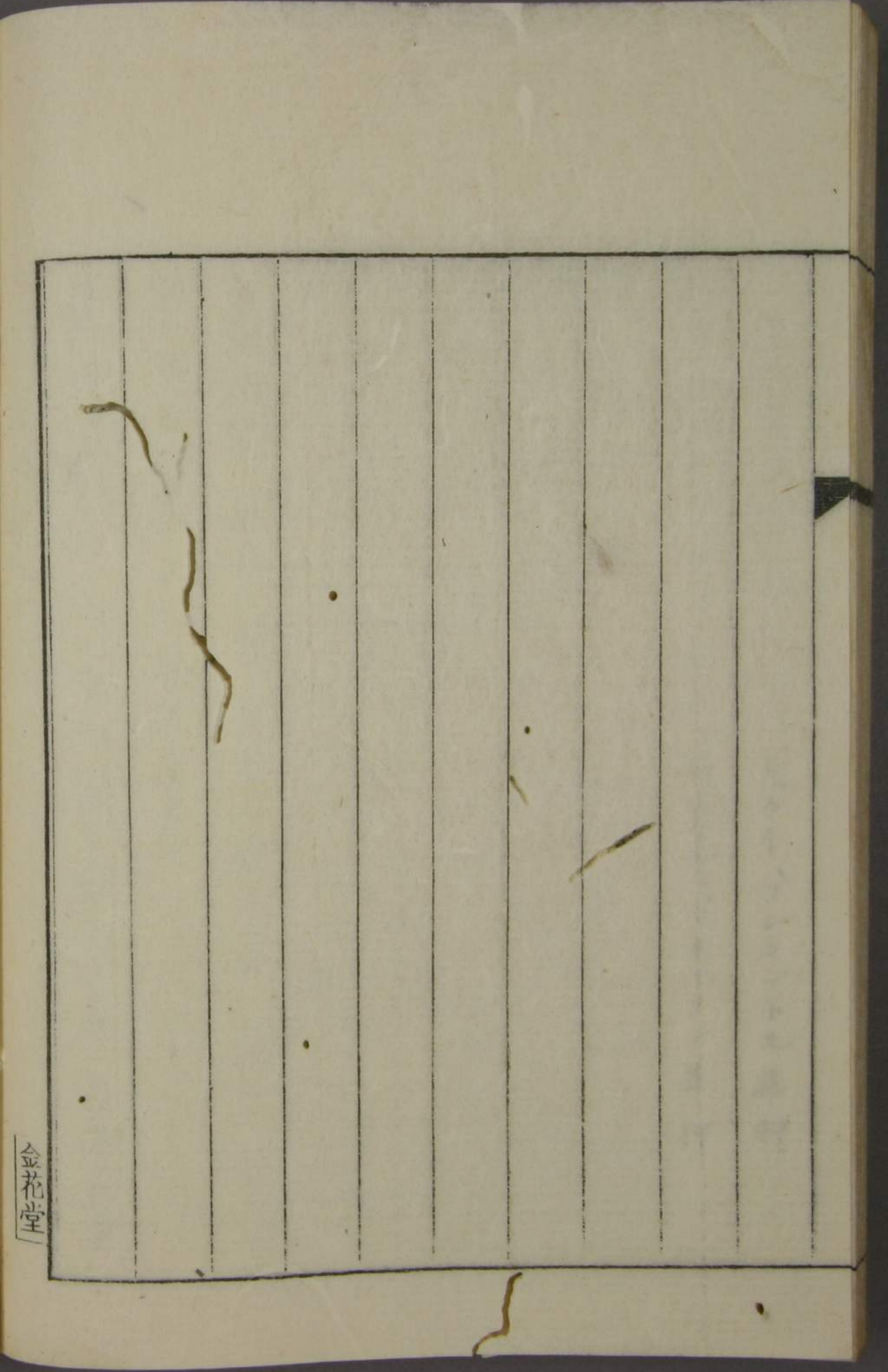
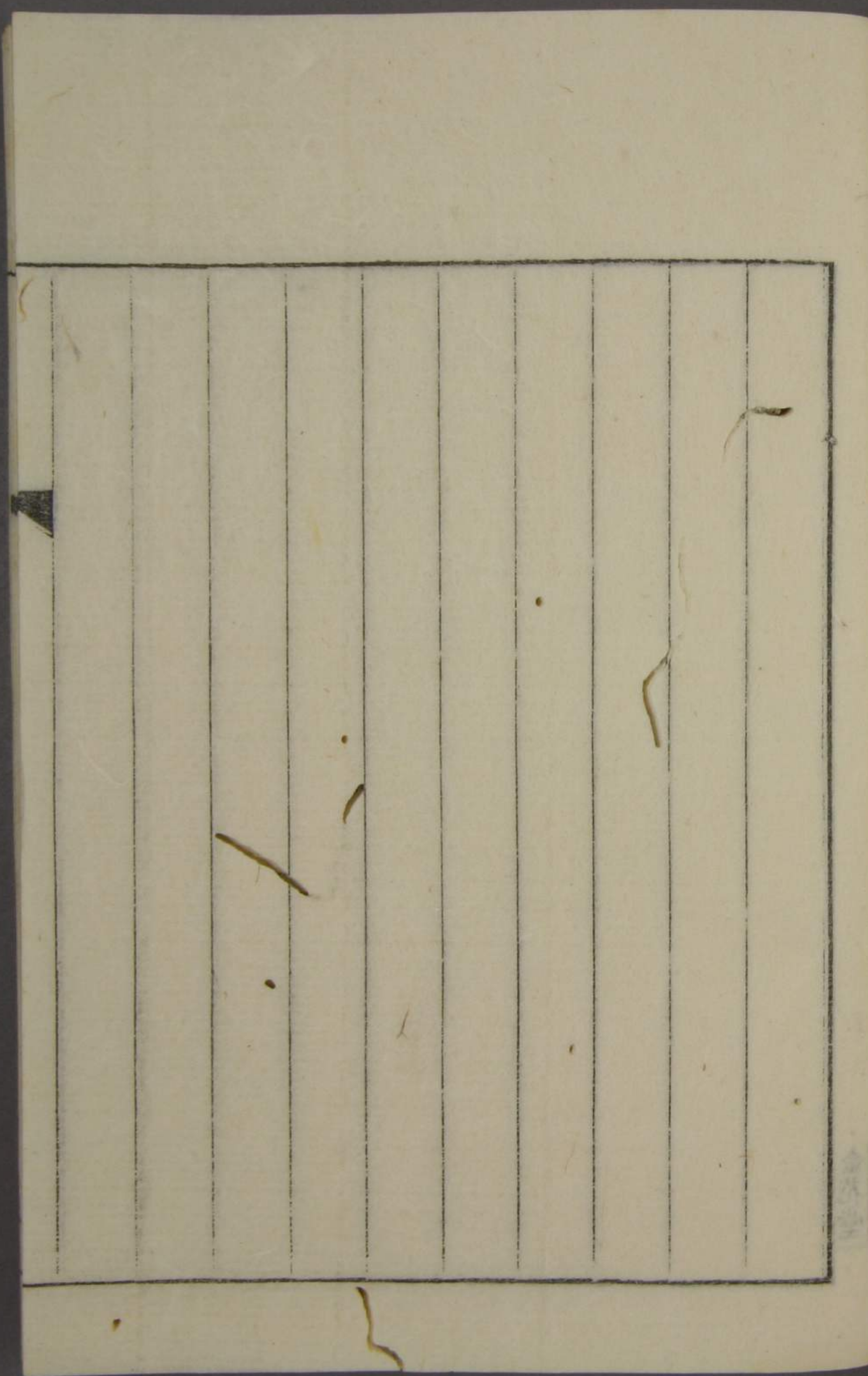
國ノ需ヲ拒ムト無ク其貨幣ヲ鑄造スル時ハ英國造幣局ノ利潤ト為レルヲ瞭然タル可シ

外國政府ノ屬託ヲ受ケ貨幣ヲ鑄造スルハ既ニ他邦ノ造幣局ニテハ之レヲ許可シタルモノ多ク近來佛國ノ造幣局ニテハルウマニヤ國並ニ埃及國兩國ノ貨幣ヲ引受ケ鑄造シタリ故ニ以來我邦ノ造幣局ニテ外國政府ヨリ貨幣鑄造ノ屬託ヲ受クル時ハ造幣局ヨリ其旨ヲ會計局ニ告知シ會計局ヨリ其鑄造ヲ為スニ必用ノ預備金屬器
械等ヲ為ス可キノ許可ヲ得テ其鑄造ヲ為スノ之余等ノ欲スル所ナリ

千八百六十九年第十一月十七日

シ、ウイ、フレマントル華押
シ、リウルス、ウイルソン華押

金花堂



金花堂

金花堂

